

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0172000259), 法人名 (三愛商事株式会社), 事業所名 (グループホーム里の家 桂岡(すずらん)), 所在地 (北海道小樽市桂岡町11-13), 自己評価作成日 (平成30年12月1日), 評価結果市町村受理日 (平成31年2月18日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は地域密着型サービスの意義を理解し、入居されている方々が認知に障害があっても適切な介護を受ける事によって穏やかな生活ができる事を目標にしています。地域の中で長く生活されてきた方々が地域と繋がり、それまでの生活と環境を大切に...

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2018_02_2_kihon=true&JigyosyoCd=0172000259-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (平成31年1月21日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム里の家桂岡は、住宅街がある丘陵地帯に位置し、開設して18年が経過している。町内会では里の家担当役員がおり、草刈りや里の家祭りには西瓜の差し入れがあるなど、多くの配慮を頂いている。...

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 describe various service outcomes like staff understanding, user participation, and safety.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に密着した理念が事業所にあり、毎朝唱和している。 定期的に理念について話し合う機会があり、実践につなげている。	「安心して・生きがい・心豊かに・地域に愛され」をキーワードとした法人理念を共有し、さらにユニット毎に理念に基づいた目標を設定している。申し送り等で理念への意識を高め、実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	入居者様が地域の方々とながらつながりを持てる様、様々な活動(お祭り、小学生との交流、地域の集まりとの交流、聾学校の就労実習等)を行なっている。外出時は気軽に挨拶ができています。	事業所担当の町内会役員から地域行事の案内があり、利用者と運動会等に参加している。ボランティアによる事業所周辺の草刈りや、「里の家祭り」には西瓜の差し入れ、ハロウィンには仮装した30数名の来訪があり、楽しげな様子が写真から見える。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小学校や地域の認知症の講習に参加している。 運営推進会議では支援の方法や支援関係の利用方法などを紹介している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には小樽市、ご家族様、町内会、地域包括、事業所の方々に参加され、行事や避難訓練等の報告を画像を用い、行なっている。意見を伺い、サービスに生かしている。	会議には各々複数の町内会、家族、行政の方々に加え、法人や事業所職員の出席の下、年6回開催している。運営状況やユニット職員による利用者の日常を写真も交え説明している。出席者から感想や要望等が寄せられ、運営やケアの充実に生かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	施設長が市役所を訪問、入居者様に関する諸手続きを行っている。各担当課と日頃から連絡を取っている。里の家便りや運営推進会議議事録等で、取り組みを伝え、協力関係を築いている。	行政とは管理者が各担当窓口に出向き、事業所便りを持参したり、情報や連絡等を行っている。昨年の震災時には、市から安否確認での来訪や非常食の提供があり、管理者は感謝の意を表している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	今年度より身体拘束廃止適正化委員会を立ち上げ、研修、報告会を行なっている。防犯上の観点で、玄関の施錠は行なっているが、施錠を感じないよう、支援している。日頃から身体拘束について話し合う機会もある。	身体拘束適正化に向け指針を整備し、町内会役員も出席の適正化委員会や職員対応の研修会は順次開催し、地域住民や職員の共通理解に繋げている。管理者は、馴れ合いによる言葉がけなどには注意喚起を促している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	全スタッフが虐待防止についての研修を受けている。日頃から、スタッフ同士、新聞の事例等を基に虐待について話し合う機会がある。お互いに注意し合える関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は研修を受けており、ご家族様に説明している。スタッフは管理者から学んでいるが、十分な知識には至っていないため、今後は外部の研修を含め、学ぶ機会を持ちたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の面談にて施設長を中心に不安や疑問点をゆっくり伺う時間を持っており、理解と納得をいただいている。改正の際は書面での説明と電話などで詳しく説明し、納得いただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様やご家族様が意見要望施設長やスタッフに伝える環境や雰囲気を整えている。また、本社にも速やかに報告し、誠意を持って対応している。外部への苦情窓口の案内を行っている。	利用者の日々の様子は、家族来訪時や電話、事業所便り、運営推進会議の議事録で報告している。家族からの意見は、職員や法人職員と改善策を協議し、時にはケアプランに反映している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や施設長はユニット会議やリーダー会議、本部での合同会議にて意見を伝える機会を持っている。その他、いつでも施設長に意見を伝える機会がある。	代表者や法人役員は事業所全体を把握しており、管理者と共に職場環境の整備に努めている。職員の意見や要望は、ユニットリーダーが傾聴し、管理者と改善に向けて協議している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務や研修の希望を自由に出来るよう、概ね整備されている。休憩室でゆとりのある休憩時間を持つ事で生きがいをもち働ける環境を整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月自己評価について研修し、スタッフのスタッフの力量にあった内部研修を行なっている。また、外部の研修に参加できるよう、希望を取れる体制を整えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	実践者研修の受け入れを行ない、同業者と交流する機会を持っている。また、地域の同業者との親睦会があり、ネットワーク作りにも努めている。随時同業者の見学も受け入れている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談を中心に施設長や計画作成担当者ご本人様の希望や不安に耳を傾ける時間を持ち、信頼関係を深めるようにしている。入居後は笑顔で接し、安心できる雰囲気作りをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談時に施設長や計画作成担当者が要望や不安について伺い、ホームで安心して生活できるよう環境を整えている。また、入居者様とご家族様が良好な関係を続けられる様に配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設長が中心となり、見学等の面談の際に必要な支援を見極め、提案させていただいている。その際は他の機関への案内も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様と共にお仕事や行事を楽しむ体制である。炊作りや食事作りでは入居者様から教わる事もあり、暮らしを共にしている。重度の方でも出来る事があり、お礼を伝えている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃の連絡や里の家便りを通じて様子を伝え、ご家族様が絆を感じられるよう、努めている。行事等にご家族様をお誘いし、支援や会話の機会を設けている。来設の難しい方もお電話できる環境を整えている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行事やドライブ等で馴染みの場所に行ったり、ご家族様了承の上、お友達と会う事ができる様にしている。入居者様との会話から、馴染みのお店等にも足を運ぶ機会を設けている。	利用者との会話や生活歴、家族からの情報を参考に、親しい方や懐かしい場所を把握している。家族の協力も得ながら馴染みのデパートや商店での買い物、美容室等に同行している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士、お話やお仕事ができる環境を整えている。引込み思案な方もおられるが、スタッフが橋渡しする事で、皆様で交流できている。歩行不安定な方をお手伝いしようとされる方もおられ、スタッフ介入にてお手伝いいただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された後も、来訪されるご家族様もおられる。入院にて退去された後も定期的にお見舞いし、相談を受け、再度申し込みできる環境を整えている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様やご家族様のお話や表情から暮らしの意向の把握に努め、ご本人様らしい生活に近づける様にしている。意思表示の難しい方もスタッフ同士情報交換し、本人本位の生活を送れる様にしている。	職員は、関わりから得られた利用者の要望に対して満足感に繋がる対応を心掛けている。外出行事や室内でのレク活動に不参加の場合も、利用者の意思として尊重している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	気軽にお話できる人間関係を築き、ご本人様やご家族様、担当者様等から沢山の情報をいただいている。情報を基に、生き活きと生活板で蹴る事を理解している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様個人の一日の過ごし方やリズムを見守りにて把握する様、努めている。行事やお手伝いを通じて心身の状況、持てる力を確認し、できる事の継続を目指す。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様、ご家族様の意向を介護計画に取り入れるため、お話しする時間を設けている。アセスメント方式の変更により、よりご本人様の意見を反映しやすい物になった。ご本人様の代弁者としてプランを作成している。	ケアプラン作成時は、事前に把握した利用者や家族の意向を基に全職員が評価を行い、検討を重ね目標を設定している。介護記録には、ケアプランの実践が確認できる欄を設けている。	介護記録のケアプランチェック欄には記入漏れが見られるので、統一した記録を期待したい。管理者は、全職員が利用者一人ひとりしっかりと向き合い、さらなるケアプランとケアの充実を検討しているので、その実行に期待したい。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、個人に対しての目標を設定し、計画が実施されているか記入している。入居者様の会話や表情を詳しく記録する事で、ご本人様像を共有し、プランの見直しにつなげている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様やご本人様のニーズに対応する様、努めている。ご本人様希望の買物等、個別対応にも取り組んでいる。ご家族様より要望があった時は柔軟に対応できる様、取り組んでいる。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	避難訓練等、地域や消防の協働をいただいている。日舞、ハーモニカ、フラダンス等、地域のボランティアも来設している。その他、ハロウィン、お祭り等で町内会の協働をいただいている。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族様やご本人様の希望に沿って受診できる環境を整えている。かかりつけ医もご家族様の納得の上、訪問診療を受けている。緊急時を含め、24時間の電話対応も行なっている。	利用者の9割は、24時間連絡体制の訪問協力医を主治医としている。希望による医療機関への受診は管理者が同行し、結果は家族に伝えている、週一度の訪問看護師による健康チェックも行われている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度の訪問看護を受けている。訪問時は入居者様の変化を伝え、かかりつけ医への報告や細かなアドバイスもいただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院された時は治療後早期に退院できる様、看護師や地域連携室等と連絡を密に取っている。普段から、病院関係者との関係作りにも努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期ケアの経験は多く、対応する準備ができている事をご本人様、ご家族様にお伝えしている。最終的にはご家族様、主治医との話し合いで決め、それに従い、全面的に協力している。訪問看護の協力も得られている。	利用時に利用者や家族に重度化や看取りの対応指針を説明し、意向確認後に同意を得ている。重篤時には、再度家族の意向を確かめ、医療関係者や家族と連携を取りながら看取り支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時に備え、消防による救急救命講習を定期的に実施している。事故やヒヤリハットについて話し合う機会を持ち、実践力を身に付けている。緊急時のマニュアルを整備している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	土砂崩れの危険のある箇所の目視を行い、全スタッフに周知している。今回の地震で備蓄等の足りない所の補強を行なった。町内会館等、地域との協力体制を築けている。	火災や地震等の災害マニュアルを整備し、消防署や地域住民の協力を得て日中・夜間想定避難訓練を実施している。昨年の震災で浮き彫りになったポータブルストーブなど、不足の備蓄品は随時法人から届き収納庫に納められている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄支援等はプライバシーに配慮し、さりげない支援を心掛けている。スタッフ同士注意し合える関係を築き、常に人格を尊重する対応を心掛けている。	利用者の状況により声のトーンが高めになる時もあるが、管理者はそれとなく注意を促すなど、職員全員の意識付けを図っている。入浴時や排泄時に於いても、利用者の意向や尊厳に配慮した接遇に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常的に思いを表せる環境を整えている。自分の思いを伝える事が難しい方は表情や行動に気を配り、思いを組む様に心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	受診等で難しい時もあるが、ご本人様のペースを大切に、どのように過ごしたいか、希望に沿って支援する様努めている。起床や就寝等はご本人様のペースでされている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人様の好みの衣類等を身に付けて頂いている。選択が難しい時はご本人様らしいものを提供し、支援している。身だしなみはプライドに配慮し、都度気を配っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューや食事作り、片付け等に協力いただいている。男性も時折、得意な作業を中心に、食事やおやつ作りを共にされている。野菜や葡萄を皆様で収穫し、すぐに提供、召し上がっている。	庭には、ブドウ、サクランボ、栗などの果樹があり、菜園には、西瓜、トマト、大根等を植えており、食後のデザートや栗ご飯、大根を漬け物にするなど、旬の食材を取り入れている。利用者も食事の支度を手伝い、バイキングや外での焼肉を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量は毎日確認し、体重等と比較し足りない場合は好みの物等で提供、声掛けしている。ご本人様に合わせた食事提供ですが、難しい時はDrに相談し、栄養補助飲料を処方いただいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者様の力に合わせて声掛けや支援にて口腔ケアを実施している。変化のある時は訪問歯科と連携し、対応している。レントゲン等の希望ある時は受診も行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	表情や排泄パターンを共有し、自立に向けた支援を行っている。自力でトイレへ行かれる方はプライドに配慮した支援を行っている。下着はご本人様に合う様、都度見直しを行なっている。	利用者自身がトイレで用を足す方や誘導等が必要な方もいるなど様々だが、羞恥心に配慮した対応を基本に一人ひとりに沿った支援を行っている。ポータブルトイレや衛生用品の使用時も職員間で十分に協議している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘により落ち着かなくなる事や便秘の原因を個別に考え、水分摂取や食事の調整をしている。また、体操やマッサージを行い排便を促している。Drと連携し、下剤の調整も行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人様のタイミングを考慮し、支援している。入浴時も体調を見ながら、ご本人様のペースに合わせた。億劫がる方や希望のある方には気分に合わせていつでも、入浴できる様に環境を整えている。	入浴は、週3回を基本としている。利用者の心身の状態、時間や回数、同性介助等の要望を取り入れ、シャワー浴や2人介助も行いながら、ゆっくり寛げるよう努めている。普段は聞かれない話もあり、ケアプランに生かしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の休息はホールや居室にて自由に取っていただいている。夜間は個々のリズムに合わせて、就寝し、適時トイレ支援を行い、安眠できる環境を整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師による居宅療養管理指導があり、薬の情報をいつでも確認できる体制をとっている。新たな薬がある時は申し送りやノートにて全スタッフの周知を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴等を活用し、ご本人様に合ったお手伝いや楽しみ事を提供している。体操やドライブ、歌唱DVD観賞を中心に支援し、笑顔が見られる様に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別の希望に沿って短い時間でもお散歩やドライブに出られる環境を整えている。受診後や希望時の買物にもお誘いしている。ご家族様との外出もされており、気分転換となっている。お散歩では地域の方々と挨拶し、交流を図っている。	元旦の初詣に始まり、天気の良い日は近所の庭の花を楽しんだり、ウッドデッキで日光浴、買い物等で外気に触れている。桜見物、外食、製菓工場と敷地内のバラ園見学等を行い、気分転換や開放感に繋げている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	スタッフはご本人様がお金を持つことの大切さを理解している。希望があれば、ご家族様了解の上、ご本人様でお金を所持している。また、買物時に支払いをしていただく場面もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は誰でも自由にできる体制を取っている。スタッフがご家族様に連絡する時は替わる事もある。手紙は書かないが、手紙やFAXが届くのを楽しみにされている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混雑をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用に空間は入居者様の動きに合わせ、都度、環境整備を行ない、混雑を招かない工夫をし、居心地良く過ごせる工夫をしている。不快な刺激が無いように、音や明るさ、温度等に気を配っている。お花や写真を飾り、季節を感じられる様にしている。	玄関には活花が飾られ、訪れる人や利用者にとって心とむ空間になっている。居間には小上がりがあり、昔の生活様式を再現している設えになっている。ユニット毎に雰囲気の違いはあるが、心地良い生活空間になっている。窓から見える景色で四季の移ろいを感じられる環境にある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	椅子を多くし、共用空間でも人目に付き辛い一人で過ごせる空間を作っている。気の合った仲間と自由にお話できる空間となっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室を居心地良く、混雑を招かない空間となる様、ご本人様、ご家族様と共に整備している。使い慣れた物を中心に使用し、昔から大切にしている写真や飾り物を自由に眺められる様、工夫している。	入居時には、利用者が愛用している物品の持参を勧めている。各居室には、テーブル、小タンク、生活用品等を置き、家族写真や手芸作品等を飾るなど、自分の居場所として過ごせる環境になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	新しく入居された方には灯りや目印で居室やトイレが分かりやすい工夫をしている。階段や廊下には手摺があり、必要時は付添い歩行にて安全に移動できている。		